



団体名	兵庫県高等学校教育研究会 生物部会 西播磨支部 (姫路城自然調査グループ)		
団体の所在地	姫路市	代表者名	廣瀬 成俊

1. 事業名	姫路城（周辺）自然調査		
2. 実施期間	平成 20 年 12 月 23 日～平成 22 年 1 月 31 日		
3. 主な実施場所	姫路市 姫路城原始林など		
4. 活動形態	調査活動		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>姫路城原始林は城の建物に沿った通路から傾斜が 55°～30° という斜面にあり、下は濠の水際まで植物が繁茂している。調査は林を 24 の区画に区切った。そして、各区画ごとに、直径 10cm 以上の樹木すべてについて樹種を判定し、胸高直径を測定した。調査を始めたのが冬季であったため、葉がなく樹種の判別がつきにくい落葉樹については、印を残しておき、葉のついている夏季～秋季の調査のときに判定した。2008 年 12 月 23 日から 2009 年 11 月 1 日までに 12 回調査活動を行い、姫山原生林に現存している直径 10cm 以上の樹木すべてについて樹種を判定し、胸高直径を測定することができた(参加者 講師(40年前の調査者など)21名、教師81名、OB(大学生)12名、中高校生47名 総合計161名)。城内、城外のタンポポの分布調査を、夏・秋・冬・早春・春の5回行った。</p>		
6. 成果・反響・ 反省点等	<p>姫路市の真ん中に、姫路城があり、その周辺に自然が残り世界遺産として保護・保全されている。それを大切を守り育てて行くことは私たちの重要な義務だと思う。そのためにも、今の自然状況を知ることは必要だと思う。この調査で、その一部でもわかったことは大切なことだと信じる。</p> <p>今回の樹木調査では、最も個体数が多かったのはシュロであった。シュロが生育すると、他種の樹木は生育できなくなるのではないかと考えられる。姫路城原生林の環境保全のためにはこのシュロ対策が必要だと思う。</p> <p>タラヨウは 40 年前より、約 100 個体減っているが、太い個体はむしろ増えている。それに対して細い個体はかなり減っている。アラカシはタラヨウとは対照的に、全体として約 100 個体増えており、とくに細い個体が増えている。これは、今後もアラカシがこの原生林の高木として維持されていくことを示していると考えられる。姫路城の原生林を保護保全するために、その遷移を継続調査が必要だと思う。</p> <p>タンポポ調査結果は、在来種のカンサイタンポポが多く、帰化種のセイヨウタンポポが入ってきていた。雑種タンポポが徐々に増えているように思える。</p> <p>また、特に参加した高校生たちにとって貴重な体験になったものと思われる。多くの学校が参加して共に調査活動を行ったことは高校生同士互いに良い刺激になっていたようである。</p> <p>さらに、1969 年の調査に参加した先生の話聞き、調査を通じて植物群落に興味を持ち、樹木それぞれの特徴や調査方法を体得したことで、身近な自然環境により目を向けるきっかけになったようである。今後もこのような機会を高校生に与えられればと願っている。</p>		
7. 成果物			
8. 活動写真・説明	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>姫路城原生林の調査風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>姫路城原生林調査時の参加者全員</p> </div> </div>		